



▲点線は30年後の西山稜線の推定位置です。

9・11は高裁・国会・都庁へ

安倍首相退陣表明の前日の九月十一日、東丹沢西山尾根道裁判二審の第一回口頭弁論が霞ヶ関の東京高等裁判所で開かれました。傍聴のために「西山を守る会」ではバスツアーを実施しました。このときの様子を報告して、次回第二回口頭弁論、十月十八日（木）の傍聴バスツアーの参加者を大募集します。

★厳重な身体・荷物検査

朝七時、三十名の参加者がJ A 荻野支所前で大型バスに乗り込み出発。途中海老名サービスエリアでトイレ休憩をし、九時前に高裁に到着しました。

十時の開廷まで一旦解散し、各自、日比谷公園や皇居前広場を散策。私は下見のため即裁判所内へ。先ず入口で空港搭乗前同様の検査を受け、エレベーターで八階に上がり八二二号法廷と待ち合し室を確認。次いで、最上階の十八階まで上がり、東京タワーや皇居前広場などの展望を楽しみ、今度は地下に下り、食堂や休憩室の位置や営業時間を確認。再び玄関ロビーに戻り、電車で来られる方や散策に出かけた人を迎えました。

開廷三十分前に八階に上がり、法廷前の掲示板を書き写しました。
（事件名）
平成十九年（行コ）第二三九号
（提起側）
花上義晴外十七名
（相手側）
厚木市長
（事件進行状況）
第一回弁論
（出廷場所）
八二二号法廷
（係名）
A B

（控訴事件名称）

忘る事実の違法確認等

（裁判長 裁判官）

寺田 逸郎

（裁判官）

辻 次郎

森 一岳

（書記官）

石江 貴雄

★テレビドラマとは大違い

開廷時間の十時前に法廷に入ると、見知らぬ弁護士がいましたので、当方の梶山弁護士にお聞きすると、私たちの前に急遽、違う事件が入ったとのこと。

裁判官入廷で、一同起立。その後は、例によって、裁判長がぼそぼそと原告と被告側の弁護士と話をし、呆気無く終了。これも地裁で見慣れた光景でした。

次いで私たちの番です。地裁では原告席の数が少なかったので原告団のメンバーが代わる代わる座りましたが、高裁の原告席は余裕があり、参加した原告全員が梶山弁護士の隣の原告席に着きました。

当方は第一準備書面を提出したにも拘らず、被告側は出さなかった。被告自ら立証すべきもの。書面を次回まで早めに提出してください」と促されました。

また、被告側弁護士が、当方の

事実誤認として、「ゴルフ場の市道は付け替える前からゴルフボールが飛んで来て危険だった」と指摘しました。

そこで、原告席の私は思わず声を上げてしまいました。「尾根道の方が眺望の良いのだから、尾根道市道を廃止しなければ、登山者はわざわざ危険なゴルフ場に下りたくないよ」と。

それにしても、被告弁護士のこの発言は厚木市の道路管理のいいかげんさを自ら認めるものでした。梶山弁護士は第一審が始まる半年も前の十六年九月に現地踏査登山をしています。それに引き換え、被告側は当時の道路部長の宮台氏からして、現地を歩いたことがないのですから、その認識の差は歴然です。

弁論はここまでで、次回の日程を決めて閉廷となりました。傍聴者はバスツアー三十名、直行八名の三十八名でした。

★控え室で報告会
閉廷後、控え室で報告会を開き、梶山弁護士にこれまでの経緯や今日の裁判などを説明していただきました。

★時宜を得た国会見学
十一時前に報告会は終了しました。直行者とはここで別かれ、バスツアー参加者は、十二時二十分のバス乗車まで自由行動とし、裁判所の地下食堂や日比谷公園松本楼など、各自思い思いのところで昼食をとりました。

臨時国会が前日に召集され、参議院の見学は危ぶまれましたが、

参観ロビーにある複製議席に腰掛け記念写真を撮り、議場や天皇陛下の御休所、中央広間の板垣退助・大隈重信・伊藤博文の像などじっくり見てきました。残念なことには、正面玄関見学の頃に十秒降りとなり、これは適いませんでした。



★都庁北展望室から

国会の次は都庁に回りました。荻野からのお上りさん一行は都民広場でツインタワーをバックに集合写真を撮り、西山を眺めるために北展望台に登りました。四十五階・二百二階の展望室の眺望案内版には大山・丹沢山の表示がありましたので、晴れていれば間違いない。西山が眺められそうです。この日は生憎の雨で見られませんでした。次回におあずけです。

四時頃にバスに乗り込み、帰路に。車中で参加者に展望室売店で求めた都庁まんじゅうをお配りし、余韻を舌で味わっていただきました。途中海老名でトイレ休憩し、ゆつたりとしたスケジュールで、東京高等裁判所、国会、都庁と巡り、なかなか良い企画だったと主催者は自画自賛しています。

行き先々での厳重検査は、9・11だったからと帰宅後に気づきました。

～四国の三島町と荻野～

率に映していた。同じ話が昔荻野にもあった。冬場、西山下ろしの強い日は、草薙屋根が傷む、火事の不安も倍増する。誰も落ち着けない。そんな時、嘉永生れの祖父が、鎌を縛った竿を西山に向けて立てる。「これで風が止む」、そんな祖父の言葉に皆はうなづいた。三島の老人と祖父、双方とも楽しんでいるかの風情が暖かい。自然界への受身の中での折り合いの付け方に古人の知恵を見た思いがした。『西山を守る会』代表 花上 義 晴

風の里の風切り鎌

8月29日の昼時、テレビをつけたらNHKの「風の里」という愛媛県三島町からの現地ルポだった。三島町は、太平洋戦争末期、昭和20年の夏、私が初年兵として過ごしたところ。北側は瀬戸内海が広がり風光明媚。背後の南側は四国山地の支脈の山が迫る狭隘の地である。この、背後の山からの吹き下ろしが風害を生む。これをやまじ風と言いい、テレビは、数名の老人が竿に鎌を付けて山に向けて立て、ホーイ、ホーイの声で風を押し戻す仕事を丁

○無料体験レッスンと三ヶ月お試しレッスン半額実施中！
《有効期限'07年12月まで》

花上哲雄ギター教室
242-1696

カレンダー承ります！
二〇〇八年版

各種取り揃えております
荻田印刷

入母屋造りで定評の
荻田建築

愛川町田代平山
281-0378

愛車を安心サポート
代車、引取り・納車いたします

民間車検場

(有)原モータース

中津桜台 285-1354

